

“認知症 ともに暮らそう この街で -「ぼけ」でも安心して暮らせる社会を”

9/21、京都タワーを、認知症支援のシンボルカラーのオレンジ色にライトアップ!

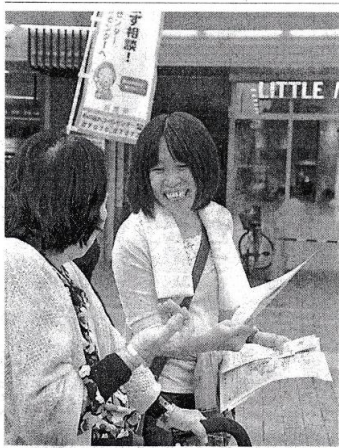
認知症家族会が、尼崎の街頭で、理解を訴える

平成27年 9/26(土)10時半、阪神尼崎駅前で計画中

主催 認知症の人と家族の会兵庫県支部 共催 尼崎市認知症介護者の会 (会長 安藤一夫)

全国での行動予定やリーフレットは、認知症の人と家族の会のホームページで見ることができます。

昨年の様子



認知症へ理解を
チラシ配り啓発
阪神尼崎駅前
国際アルツハイマー
病協会が定める「世界
アルツハイマーデー」
の21日、「認知症の人
と家族の会兵庫支部」と
「尼崎市認知症介護者
の会」は、尼崎市の阪
神尼崎駅前、チラシ

を配って認知症への理
解を呼びかけた。写真
真。
同支部によると、全
国の65歳以上の15%に
あたる462万人が認
知症を患い、年間約1
万人が徘徊中に交通事
故に遭ったり行方不明
になったりしている
という。この日は、会員
約20人が、迷っている
認知症の人に出会った
ときの対処方法などを
記したチラシを通行人
に配り、「認知症にな
っても安心して暮らせ
る社会を」と訴えた。
介護者の会の南條静
子副会長(78)は「徘徊
は家族だけでは防ぎき
れない。社会全体で見
守ってほしい」と話し
た。
【米山淳】

2014年9月21日
← 毎日新聞
↓ 読売新聞

「認知症の人と家族の会」
兵庫支部と「尼崎市認知症介
護者の会」などが20日、尼
崎市の阪神尼崎駅前で「認
知症について正しい知識を
持つて」と、チラシを配っ
て市民らに呼び掛けた。
世界アルツハイマー月間
(9月)に合わせ、同市では
初めて実施。チラシには、認
知症が誰にでも起こりうる
病気であることや、認知症
患者や家族を見守り、手助
けをする「認知症サポータ
ー」の説明などが記され、認
知症患者の家族や市職員ら
約30人が介護の苦勞を語り
ながら、通行人に手渡した。
介護者の会の安藤一夫会
長(88)は「家族は問題を抱

認知症理解深めて

尼崎 家族の会 チラシで啓発



街頭で、認知症患者や家族を支える
取り組みなどを説明したチラシが配
られた (尼崎市の阪神尼崎駅前)

え込み、孤立しがち。多く
の人に症状への理解を深め
てほしい」と訴え、チラシ
を受け取った同市の女性
(33)は「認知症の人を徘徊
によって行方不明になるこ
となどから守るには、周囲
の私たちが迷惑がらずに見
守ることが大事と感じた」と話していた。

地元ケーブルテレビ、
パソコンも取材!

★家族会のつどいは、当事者家族の体験の分かち合いの場でとても有意義です。毎月開催中。

●募集中 9月26日街頭アクション・参加ボランティア ☎080-1461-6202 栗野

栗野真造 (西長洲荘・主任介護支援専門員、尼崎市認知症介護者の会・会員)